

巻頭言

一歩先を行く

いすゞ自動車株式会社
購買部門統括 常務執行役員

都築 成夫



近年、世界各地で集中豪雨、大洪水、氷河融解、砂漠化などの異常気象、46億年かけてできあがった地球生態系の乱れが急速に進行しております。政治・経済の面でも保護貿易主義の台頭、新興国の急激な経済成長に伴うグローバル市場の拡大とニーズの多様化に加え、AI、IoTなどの未経験分野での加速度的な技術の進歩も顕著となってきております。このような中、我々企業活動を行う者には、環境・社会間との調和と協調を図ることが喫緊の課題として求められております。

弊社の企業理念は、「運ぶ」を支え、信頼されるパートナーとして、豊かな暮らし創りに貢献します」です。現在の中期経営計画でも、企業理念の実現手段として

- ① 技術と製品で「運ぶ」を支えるものづくり
- ② ライフサイクルで「運ぶ」を支える稼働サポートの両輪での活動が骨子となっております。

私は中計をはじめとする、業務を遂行する上での心構えとして「一歩先を行く」を提唱しており、これはVEの考え方と相通じると考えております。

「一歩先…」ということは、他にはない、他とは異なるという新規・独創性や差別性のある事象を創ることで、更に「先」は、原因追究などの過去振り返りの思考ではなく、目的や機能追求のように前向きな思考を指しております。また、「～を行く」ということは、机上論ではなく具体的に行動に移すことを促しております。したがって「一歩先を行く」というのは一見単純に見えますが、実行するには、それなりの知恵や工夫が必要になります。例えば、新たな排ガス低減装置を考えるにしても、先例はなく、ようやく考えた案も機能の向上に伴って、コストも上昇するという、機能とコストの相反性が容易に想像できます。如何に機能とコストを両立させるかは、大きな壁ですが、この「一歩先を行く」を実行するため

には、私はVEの先人たちが伝承してきたVE5原則が有効だと考えます。事象の目的や機能をトコトン追求することで、原点に遡ることができ、結果として創造の自由度が増し、矛盾解決に至る確率が高まります(=機能本位の原則)。また、一人よりも集団の方が知識・知恵・経験を結集できます(=チームデザインの原則)。

私は購買部門の若手に「一歩先を行く購買」という課題を与え、下記提言をもらいました。その概要は、今後の購買の業務範囲は、ライフサイクルとグローバルという2軸を意識して、その領域内で情報収集・共有化・可視化を進め、如何に仕組み化するか、そこで得られた情報をどのように加工し、全体最適となる解決策を探し、実行していくかが「一歩先を行く」ことに繋がるという内容でした。私としては部分的には「一歩先を行く」レベルでの提言であり、内心嬉しく思った次第です。

今後、組織としてこの「一歩先を行く」という行動指針を社内に推進していく上で、ライフサイクル軸とグローバル軸、時々刻々と変わる業務環境条件等を勘案すると、個人ベースでは、下記のスキルが必要条件になると考えます。

一つは独立と協生の精神です。それは世界のどこにいても自分で考えて行動できる「独立して生きる力」と、他人と協力し活動することのできる「協生して生きる力」です。

もう一つは、多様な事象を把握し、その分析の中から問題を抽出、その問題の解決案を創造し実行していくVE的な体質です。

今後も企業収益向上と、地球環境・社会との調和を両立できるような企業となるべく、社内にVEを波及・展開させていく所存です。皆さま方のご指導をよろしくお願い致します。

(筆者は当会理事)